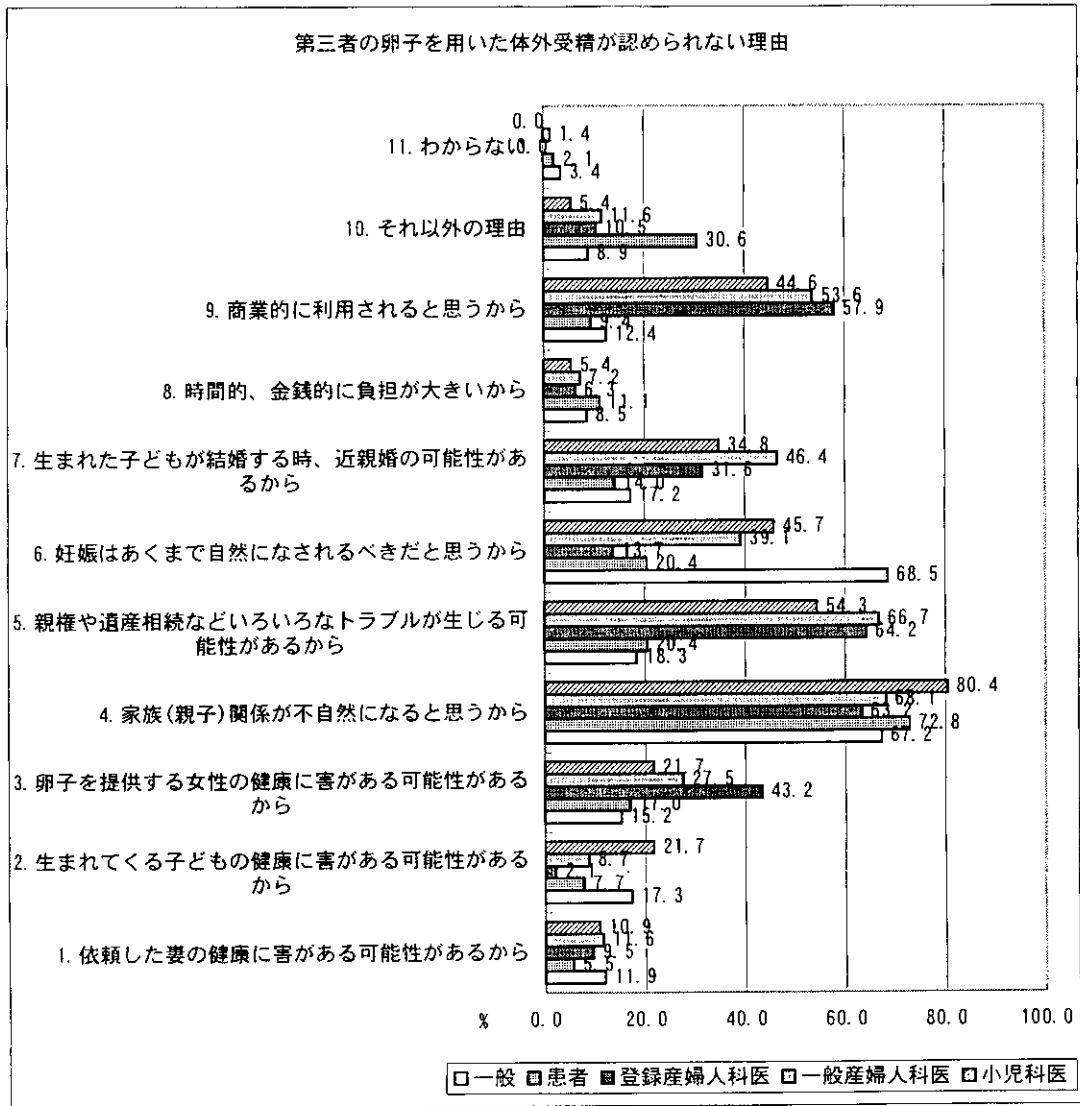
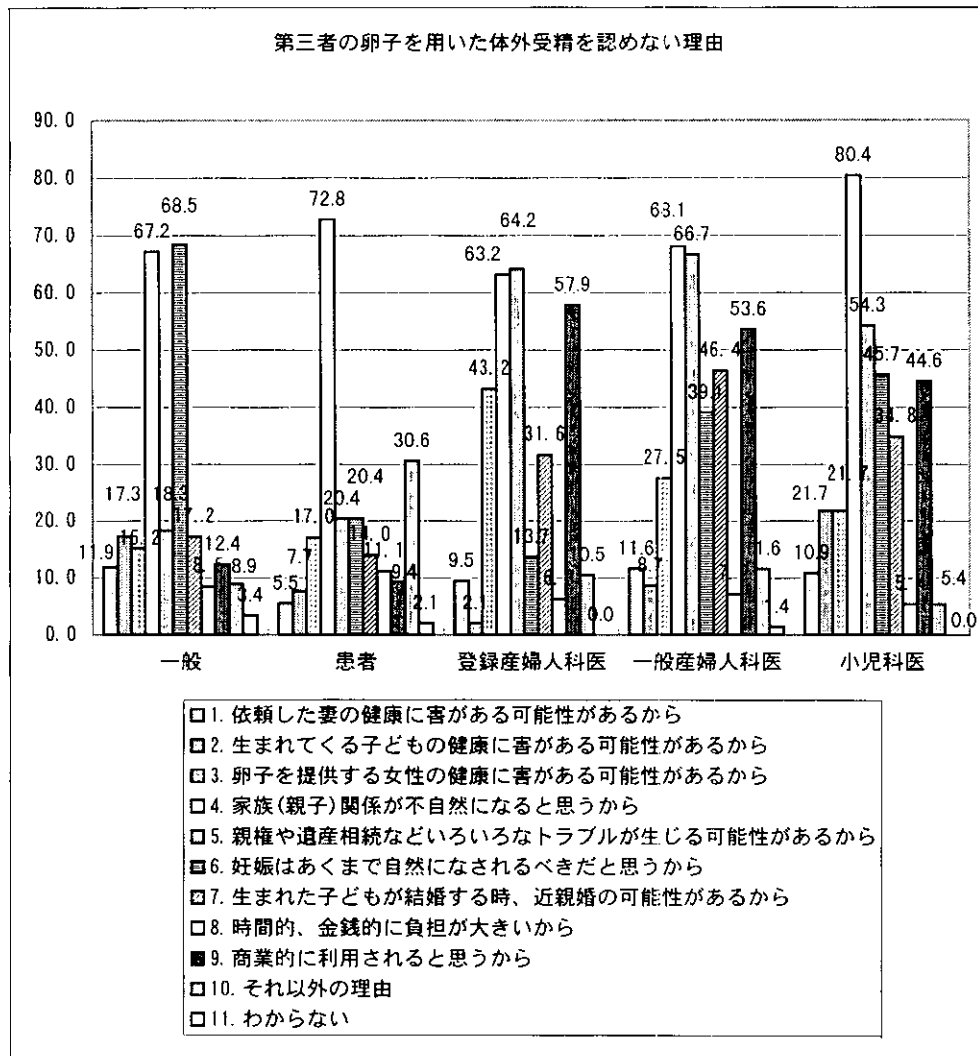


7. 第三者の卵子を用いた体外受精が「認められない」理由：理由別の比較



・対象群別の比較



・いずれの群も「認めない」理由は「4.家族（親子）関係が不自然になると思うから」が多いが、2 番目、3 番目の理由は対象群により若干異なる。

・患者において「10.それ以外の理由」が多い。内容はほとんどが「自分達の血のつながった子どもがほしいから」であった。

*次ページの一般国民、患者における「それ以外の理由」についての記載一覧表を参照。

*それ以外の理由は 1. 「自分たちの（血のつながった）子どもがほしい」、2. 「生まれてきた子ども自身の権利、苦悩」、3. 「血が繋がっていないことによる育児などの不安」、4. 「第三者の卵子等を利用することへの拒否感」、5. 「種々の不安」、6. 「養子制度を利用する」、7. 「その他」に分類した。

Q11「第三者の卵子を用いた体外受精」を「利用しない」、選択肢以外の理由（一般国民）

理由	性	年齢
1 妻の遺伝子を残したい	男	39
1 妻の遺伝子を残したい	男	31
1 夫婦の子どもが欲しい	女	32
1 夫婦の子どもが欲しい	女	26
1 自分の卵子が良い	女	45
1 夫婦の子どもでなければいけない	女	26
1 夫婦の子どもが欲しい	女	24
1 夫婦の子どもが欲しい	女	28
1 夫婦の子どもが良い	女	34
1 愛している人の子どもが欲しい	男	67
1 夫婦の子どもが欲しい	女	30
1 夫婦の子どもが良い	男	41
1 妻の遺伝子を残したい	男	26
1 自分の子どもと思えない	女	34
1 夫婦以外の子どもはほしくない	女	41
1 夫婦の子どもが良い	男	42
1 夫婦の子どもが良い	男	44
1 夫婦の子どもが良い	女	42
1 妻以外考えられない	男	25
1 夫婦の子どもが良い	女	35
1 夫婦の子と思えない	男	40
1 配偶者でなければいけない	女	34
1 夫婦の子供が欲しい。	女	32
1 子どもは愛の結晶	女	35
1 第三者の卵子は使いたくない。	女	29
1 自分の子供が欲しい。	女	38
1 親子関係は血のつながりが大切	男	50
1 夫婦の子どもが良い	男	22
1 夫婦の子どもが良い	女	35
1 夫婦の子どもが良い	男	29
1 子どもは愛の結晶	男	35
1 不妊治療は夫婦間のみ	男	34
1 自分たちの子どもで無くなってしまう 子どもに対して父親が分からないのは	女	35
2 人間の尊厳に反する	女	35
2 子どもが事実を知ったら悩むから	女	34
2 生まれてくる子供が悲しむ。子供は玩具ではない。		
2 子どもの人権保障ができない	男	25
2 大人のエゴと思う。出生の秘密を知ったときの 悲しみは大きい	男	51
2 子どもが精神的負担を背負う	女	46
2 子供が知ったら将来悩む。社会的に認知度低く 踏み切れない。	男	37
2 子どもが精神的負担を背負う	女	21
2 子どもは品物ではない	男	63
2 子どもが精神的負担を背負う	女	27
2 子どもが事実を知ったらショックを受ける	女	40

理由	性	年齢
3 自分の子どもと思えない	女	25
3 自分の子どもと思えない	女	22
3 自分の子どもでない意識がある	男	28
3 自分の気持ちに将来自信がない	女	50
3 自分の子どもとして接していけるか不安	女	43
3 顔が似ていないから嫌	女	28
3 子どもを可愛がれ無い	女	27
3 顔が似ていないから嫌	女	30
3 愛情面で不安	女	54
3 夫と自分以外の女性の子とってしまう	女	22
3 可愛がれ無い	女	33
3 自分の子供としてみれず可愛がれない。	女	30
3 自分の子どもとして接していけるか不安	男	40
3 自分の子どもでない意識がある	女	22
3 本当の母親になれない	女	24
3 愛情面で不安	女	46
3 自分の子と信じて育てられるか不安	女	41
3 自分の子と思えるか不安	女	27
3 自分の子と信じて育てられるか不安	女	36
3 子育てに失敗したとき自信がない	女	46
3 自分の子どもと思えない	女	29
3 こと なく愛する自信が100%あると思えない。	女	48
3 自分と血のつながりがないことが不安	女	33
3 他人のDNAを持ち成長していくことの不安	男	22
3 自分の子どもと思えない	女	51
3 子どもを愛せない	女	45
3 自分の子どもと思えない	男	24
4 精神的に耐えられない	女	39
4 人間的に嫌	女	20
4 体外受精は嫌	女	37
4 感情的に無理	女	59
4 卵子だけは自分のものを使いたい	女	43
4 生理的に嫌	女	20
4 他人の卵子を自分の子宮に入れる行為ができ	女	34
4 他人の卵子は入れられない	女	44
4 昔の側室の子という感じで許せない	女	52
4 血のつながりがないから嫌	女	44
4 他人の卵子を自分の子宮に入れる行為ができ	女	28
4 感情的に無理	女	27
4 他人の卵子を体内に入れることは不安	女	24
4 誰の子か分からないことに汚さを感じる	女	24
4 金銭的、不自然きわまりない。	男	76
4 他人の卵子を入れられない	男	41
4 人間としてできない	女	38
4 自分のDNAを残したい	女	32

次のページへ続く

前ページからの続き

	理由	性	年齢
5	卵子提供者との関係が不安	女	24
5	技術的に不安	女	63
5	夫の精子でなんとかして欲しい	女	28
5	遺伝子が心配	男	67
5	社会的問題が生じる	男	49
5	日本の男性の成熟度が低い ため技術に対応できない	女	46
5	親子関係が社会的問題に 発展しかねない。	女	45
5	次の世代にも問題となる。	女	45
5	夫を説得できない。	女	63
5	夫婦の意識に問題が生じる	女	40
5	一生心が疲れる。	女	36
5	第三者がどんな人か不安	女	20
5	夫と他の女性の子供という イメージがある。	女	20
5	妊娠できないことに落ち込み 嫉妬してしまう	女	29
5	第三者がどんな人か不安	男	54
5	夫婦間でトラブルが起ころう	女	28
6	養子にする	女	35
6	養子のほうが良い	男	41
6	養子のほうが良い	男	68
6	養子のほうが良い	男	46
6	養子のほうが良い	女	39
6	養子など他の方法がある	女	30
6	養子をもろう	女	44
6	養子をもろうほうが良い	女	29
6	養子のほうが良い	女	62
6	養子にする	女	24
6	養子、里親のほうが良い	男	43
7	子どもはいらない	女	36
7	運命を受け入れるべき	男	36
7	子どもが幸福のすべてではない	男	36
7	無理な子孫はいらない	女	22
7	子どもは作り上げるものでない	女	42
7	質問自体ナンセンス	男	44
7	自然体が一番	女	46
7	人体をパーツとして扱うことは ナンセンス	女	40
7	問題が生じたときどの機関が 責任をとってくれるの	男	40
7	不自然過ぎる	男	67
7	その時にならないと分からない	男	25
7	生命誕生に人間が関わってはいけない	男	33

Q11「第三者の卵子を用いた体外受精」を
「利用しない」、選択肢以外の理由（患者）

1	自分の子どもが欲しいから
1	自分以外考えたくない
1	夫婦の子どもが欲しい
1	夫婦の子どもが欲しい
1	夫婦の子どもが欲しい
1	夫婦のDNAを受け継いだものこそ夫婦の子どもである
1	夫婦の子どもが欲しい
1	夫婦の子どもが欲しい
1	第三者の子どもは欲しくない
1	夫婦の子どもが欲しい
1	生物学的に夫婦の子どもが欲しい
1	夫婦の子どもが欲しい
1	他人と夫の子どもは欲しくない
1	夫婦の子どもが理想的
1	夫婦の子ども以外はいらない
1	夫婦以外に考えられない
1	夫婦以外に考えられない
1	自分の子どもが欲しい
1	夫婦の子どもが一番
1	夫婦以外の子どもを持つことに意味をみいだせないから
1	夫婦の子どもが欲しい
1	夫婦の子どもが欲しい
1	夫婦の子どもが欲しい
1	夫婦の子どもが欲しい
1	第三者の子どもは欲しくない
1	夫婦の間で生まれてこそ意味がある
1	夫婦の子どもが欲しい
1	夫婦の子どもが欲しい
1	夫婦の子どもが欲しい
1	夫婦の子どもが欲しい
3	自分の子どもでないので育てられない
3	自分の子どもとして育てられるか不安
3	夫婦の本当の子どもという気が薄れる
3	自分の子どもでないと思ったとき子育てに自信がない
3	自分自身の子どもと認める自信がない
3	夫婦間の子どもとは思えない
3	自分の子どもとは思えない
3	奇形児等が生まれたら愛情がもてない。
3	臓器移植のように考えて欲しくない
3	自分の子どもとして愛しつづける自信がない
3	自分の子どもと考えられない

4	精神面で大きな負担になる
4	考えられない
4	自分の気持の問題
4	他人の卵子は絶対嫌
4	自分の遺伝子でなければ嫌
4	お互い絶対望まない
4	他人の卵子は絶対嫌
5	胎児が無事成長し出産できるか不安
5	妻の気持
5	女として気持に自信、ゆとりを持ってなくなりそう
5	自分の精神面が不安
5	夫婦間がギクシャクする可能性がある
6	養子の方が良い
6	捨て子を育てた方が良い
6	養子の方が良い
7	自分達に異常がないため
7	人生に対する価値観に重点を置いている
7	自分の卵子が使用できるから
7	そこまでして欲しくない
7	今はそこまで考えられない
7	夫婦共に血縁が無いほうが良い
7	そこまでして欲しくない
7	そこまでして欲しくない
7	そこまでして欲しくない
7	そこまでして欲しくない
7	そこまでして欲しくない
7	そこまでして欲しくない
7	育児だけが幸せな結婚生活とは思わない
7	必要無いため考えられない
7	夫婦に愛があれば別の方法を考えたほうが良い
7	自分の卵子が使用できるから

8. Q1(1)～(7) (性別役割 (ジェンダー) に関する意識)、Q1(8) (医療技術に関する意識) およびQ2 (生殖補助医療技術に関する知識) との関連

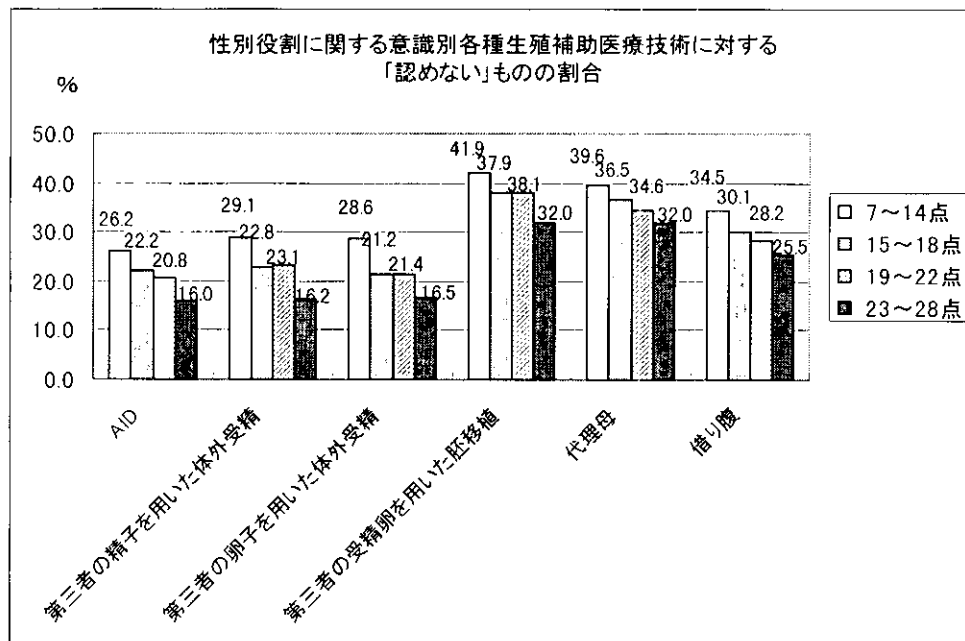
(1) Q1(1)～(7) (性別役割 (ジェンダー) に関する意識) について

- ・Q1(1)からQ1(7)までの合計得点で性別役割に関する意識を評価した。得点は最低7点、最高28点であり、低いほど保守的(Aに近い)、高いほど男女平等の意識が強い(Bに近い)といえる。
- ・得点分布は正規分布を示した。
- ・平均得点は全体で18.2±5.3点で、男性が17.3±5.2点、女性が19.0±5.2点と統計学的に有意に女性の方が得点が高かった。また、年齢は30歳代が最も高く、40歳以降は年齢とともに得点は低くなっていた(統計学的に有意差あり)。

年代	平均点	男性	女性
20歳代	19.2±4.4 (413)	18.2±4.4 (184)	20.1±4.4 (220)
30歳代	19.9±4.7 (439)	18.6±4.9 (168)	20.7±4.4 (271)
40歳代	18.8±5.1 (637)	17.6±5.3 (298)	19.9±4.7 (339)
50歳代	17.1±5.3 (549)	16.5±5.3 (273)	17.7±5.3 (276)
60歳代	16.1±5.5 (434)	16.0±5.3 (210)	16.3±5.7 (224)

平均点±標準偏差 (人数)

- ・得点が「低い」と各種生殖補助医療技術に対して「認められない」と回答することに関連が見られた(統計学的に有意差あり)。
- ・得点を四分位数(7～14点(633人)、15～18点(609人)、19～22点(671人)、23～28点(574人))別の各種生殖補助医療技術に対して「認められない」と回答したものの割合



- ・患者と同年代の女性の一般国民を比較すると患者に保守的な傾向が強く、特に「家を自分の代で途絶えさせてはいけないと思う」についてはA または A に近いと回答したものが患者で 34.7%、一般国民で 18.8%とかなり異なっていた。

表 Q1 における患者と一般国民の意識の違い

Q1 以下の A と B それぞれ対立する考え方のうち、あなたのお考えはどちらにより近いですか。(1) ~ (8)のそれぞれについて、1~4 のいずれか、ひとつを選んでください (○は1~4 のうちひとつ)。

上段：一般国民 (30 歳代女性)、下段：患者 (30 歳代女性のみ)

A	A に近い	どちらかとい えば A に近い	どちらかとい えば B に近い	B に近い	B
(1)やはり「男は仕事、女は家庭」を中心に生活するのが良い	1 9.4%(26) 6.4%(13)	2 32.3%(89) 36.6%(74)	3 37.3%(103) 38.1%(77)	4 21.0%(58) 18.8%(38)	仕事も家庭も男女、同じように行うのが良い
(2)女性は子どもを産んでこそ一人前だと思う	1 3.3%(9) 5.9%(12)	2 18.7%(51) 21.8%(44)	3 35.2%(96) 32.2%(65)	4 42.9%(117) 40.1%(81)	子どもを産まない生き方も女性の一人前の生き方だと思う
(3)結婚したら子どもを持つのがあたりまえだと思う	1 4.7%(13) 11.9%(24)	2 15.6%(43) 13.4%(27)	3 28.4%(78) 28.4%(57)	4 51.3%(141) 46.3%(93)	結婚しても、子どもを持つ、持たないは、個人の自由だと思う
(4)子どもがいない人生なんて考えられない	1 17.0%(47) 12.9%(26)	2 19.6%(54) 26.2%(53)	3 32.6%(90) 36.1%(73)	4 30.8%(85) 24.8%(50)	子どもがいなくても幸福な人生をおくれると思う
(5) 血は水より濃し (親子関係は血のつながりが大切)	1 12.0%(33) 13.4%(27)	2 27.7%(76) 38.6%(78)	3 41.6%(114) 38.6%(78)	4 18.6%(51) 9.4%(19)	産みの親より育ての親
(6)年をとって子や孫がいないのは不幸なことだと思う	1 7.6%(21) 12.4%(25)	2 29.0%(80) 30.7%(62)	3 35.9%(99) 35.6%(72)	4 27.5%(76) 21.3%(43)	子や孫がいなくても幸福な老後はあると思う
(7)家を自分の代で途絶えさせてはいけないと思う	1 4.7%(13) 11.4%(23)	2 14.1%(39) 23.3%(47)	3 35.5%(98) 34.2%(69)	4 45.7%(126) 31.2%(63)	家が自分の代で途絶えるとしても、それはしかたのないことと思う
(8)医療技術の進歩は、人間にとって幸福よりも不幸をもたらしていると思う。	1 2.5%(7) 1.0%(2)	2 18.1%(50) 8.4%(17)	3 52.2%(144) 43.1%(87)	4 27.2%(75) 47.5%(96)	人間生活をより幸福なものにするためには、できる限り医療技術を発展させるべきだと思う。

有意差検定 (χ^2 検定、自由度 3)

上表の番号	χ^2 値	p値
(1)	2.23	0.53
(2)	2.91	0.41
(3)	8.75	0.03
(4)	5.58	0.13
(5)	11.37	0.01
(6)	4.70	0.20
(7)	18.55	0.001
(8)	24.81	0.001

(2) Q1(8) (医療技術に関する意識) について

- ・医療技術に関する意識は女性より男性が B または B に近い意識を持っている人が多かった (統計学的に有意差あり)。年齢との関連は認められなかった。
- ・患者は同年代の女性に比べて B に近い意識を持っていた。
- ・A であることと各種生殖補助医療技術に対して「認められない」に統計学的に有意な関連が認められた。

(3) Q2 (生殖補助医療技術に関する知識) について

- ・(1)から(9)まで全部「知っている」と回答した人の割合は 20.4%で、男女差はなかったが (男性 19.9%、女性 21.0%)、年代別には 40 歳代をピークに山型を示した (20 歳代 11.4%、30 歳代 21.9%、40 歳代 25.7%、50 歳代 22.9%、60 歳代 17.3%)。
- ・知識は合計得点で評価した。最低 9 点、最高 36 点。得点が低いほど知識がある。
- ・知識得点に性差はなかった (男性 14.7±4.6 点、女性 14.2±4.4 点)。
- ・年代別では 40 歳代が知識が最もあり、U 型の分布を示した (統計学的に有意差あり)。
- ・Q1 (性に関する意識) との関連は Q1 の得点が高いほど (B に近いほど) Q2 の得点が低かった (知識がある)。すなわち、男女平等意識の強いことと生殖補助医療技術の知識があることとに関連が認められた。また、年齢と性の影響を取り除いてもこの傾向は変わらなかった (統計学的に有意差あり)。
- ・知識があることと各生殖補助医療技術に対して「認める」に関連があり、知識がないことと「わからない」に関連が認められた (統計学的に有意差あり) が、次に示す多変量解析により他の因子の影響を取り除くと関連が認められなくなった。

(4) 多変量解析

- ・一般国民において、各種生殖補助医療技術を従属変数として、性、年齢、Q1 (性に関する意識)、Q2 (生殖補助医療技術に関する知識)、結婚状況、子どもの有無を独立変数 (説明変数) とした多変量解析の結果次のようになった (いずれの技術もほぼ同じ結果であったので、ここでは第三者の精子を用いた体外受精について示す。解析は多重ロジスティックを用い、従属変数は 0 = 「認める」または「条件付きで認める」、1 = 「認めない」。「わからない」は除いた。)

説明変数	結果	オッズ比 (95%信頼区間)	標準化ロジスティック回帰係数
性 (男 1、女 2)	女性—認めない	1.46(1.16-1.85)	0.105
年齢 (1 歳)	高齢—認めない	1.02(1.01-1.03)	0.163
Q1 (性別役割に関する意識得点)	保守的—認めない	0.81(0.73-0.90)	-0.129
Q2 (知識得点)	関連なし	0.85(0.64-1.12)	-0.039
結婚状況 (未婚 1、既婚 2)	関連なし	1.48(0.84-2.62)	0.080
子どもの有無 (あり 1、なし 2)	あり—認めない傾向	0.62(0.38-1.01)	-0.113

- ・医師において、各種生殖補助医療技術を従属変数として、性、年齢、結婚状況、子どもの有無、専門科を独立変数（説明変数）とした多変量解析の結果次のようになった（いずれの技術もほぼ同じ結果であったので、ここでは第三者の精子を用いた体外受精について示す。解析は多重ロジスティックを用い、従属変数は0＝「認める」または「条件付きで認める」、1＝「認めない」。「わからない」は除いた。）。

説明変数	結果	オッズ比 (95%信頼区間)	標準化ロジスティック回帰係数
性（男1、女2）	関連なし	3.64(0.97-13.68)	0.245
年齢（1歳）	高齢－認めない	1.09(1.04-1.14)	0.556
専門診療科（登録医1、他の産婦人科医2、小児科医3）	小児科－認めない	5.42(2.07-14.24)	0.776
結婚状況（未婚1、既婚2）	関連なし	0.27(0.02-4.53)	-0.178
子どもの有無（あり1、なし2）	関連なし	0.76(0.60-23.72)	0.251

9. 不妊治療患者推計

1) 不妊治療受診患者数

一般国民に対する調査票の Q27(5)の回答から現在の不妊治療を受けている患者数を推計した。

- ・前提として、女性の回答者は自分自身の状況であり、男性の回答は配偶者の状況であるとした。
- ・平成9年度の年代別女性の人口を用いた。
- ・現在、不妊治療を受けている患者は約 284,800 人 (95%信頼区間は 150,500～417,000 人) と推計された。

	排卵誘発剤	人工授精	体外受精	顕微受精	その他	合計
現在受けている	165,500	35,500	17,700	14,500	51,600	284,800
過去に受けた	709,000	271,500	99,900	14,500	340,000	1,434,900
治療して子どもが生まれた	314,500	37,800	35,500	35,500	190,000	613,300
合計	1,189,100	344,800	153,200	64,400	581,500	2,333,000

注：表の縦方向は回答に重複はなく、横方向は回答に重複がある。

例えば、子どもが産まれた生まれないに関わらず、現在または過去に体外受精の治療を受けた女性の実数推計が 153,200 人となり、過去に何らかの不妊治療を受けた女性の延べ人数推計が 1,434,900 人となる。ただし、現在受けている治療が重複していなければ、現在、約 28 万 5 千人が不妊治療を受けていると推計される。

2) 既婚者の不妊治療受療率

既婚者における不妊治療受診率を推計した。夫婦ともに調査対象者となったものがないと仮定すると、これは既婚カップル（夫婦）における不妊治療受療率の推計となる。

- ・本調査回答者における年代別婚姻率と既婚者に子どものいる割合

年代 (人数)	既婚率	既婚者に子どものいる率
20 歳代 (394)	34.8%	77.4%
30 歳代 (434)	80.2%	90.2%
40 歳代 (643)	89.1%	94.2%
50 歳代 (556)	92.4%	95.1%
60 歳代 (460)	90.4%	96.4%

不明は除く

- ・現在、30 歳代の夫婦で不妊治療を受けいている夫婦は 3.13% (95%信頼区間 1.31%～4.95%) と推計された。

排卵誘発剤

排卵誘発剤	過去に受けた	治療して子どもが産まれた	現在治療を受けている
20歳代	1.46%	1.46%	1.46%
30歳代	4.83%	1.70%	1.70%
40歳代	2.09%	1.22%	0.17%
50歳代	1.36%	0.78%	0.00%
60歳代	1.19%	0.00%	0.00%
合計	2.15%	0.95%	0.45%

人工授精

人工授精	過去に受けた	治療して子どもが産まれた	現在治療を受けている
20歳代	0.00%	0.73%	0.00%
30歳代	1.70%	0.00%	0.57%
40歳代	1.05%	0.00%	0.00%
50歳代	0.78%	0.19%	0.00%
60歳代	0.24%	0.00%	0.00%
合計	0.85%	0.10%	0.10%

体外受精

体外受精	過去に受けた	治療して子どもが産まれた	現在治療を受けている
20歳代	0.00%	0.00%	0.00%
30歳代	1.14%	0.57%	0.28%
40歳代	0.35%	0.00%	0.00%
50歳代	0.00%	0.00%	0.00%
60歳代	0.00%	0.00%	0.00%
合計	0.30%	0.10%	0.05%

顕微受精

顕微受精	過去に受けた	治療して子どもが産まれた	現在治療を受けている
20歳代	0.00%	0.00%	0.00%
30歳代	0.00%	0.57%	0.00%
40歳代	0.17%	0.00%	0.17%
50歳代	0.00%	0.00%	0.00%
60歳代	0.00%	0.00%	0.00%
合計	0.05%	0.10%	0.05%

その他

その他	過去に受けた	治療して子どもが産まれた	現在治療を受けている
20歳代	0.00%	0.73%	0.00%
30歳代	0.85%	0.00%	0.57%
40歳代	1.74%	0.70%	0.00%
50歳代	0.97%	0.97%	0.00%
60歳代	0.95%	0.48%	0.24%
合計	1.10%	0.60%	0.15%

技術全体 (95%信頼区間)

全体	過去に受けた	治療して子どもが産まれた	現在治療を受けている
20歳代	1.46% (0.00- 3.47)	2.92% (0.10-5.74)	1.46% (0.00-3.47)
30歳代	8.52% (5.60-11.44)	2.84% (1.10-4.58)	3.13% (1.31-4.95)
40歳代	5.40% (3.55- 7.25)	1.92% (0.80-3.04)	0.35% (0.00-0.83)
50歳代	3.11% (1.61- 4.61)	1.95% (0.75-3.15)	0.00% (0.00-0.00)
60歳代	2.39% (0.93- 3.85)	0.48% (0.00-1.14)	0.24% (0.00-0.71)
合計	4.46% (3.55- 5.37)	1.85% (1.26-2.44)	0.80% (0.41-1.19)

・子どものいない夫婦の不妊治療受診状況 () は人数

年代	排卵誘発剤		排卵誘発剤以外	
	過去に受けたことがある	現在治療を受けている	過去に受けたことがある	現在治療を受けている
20歳代 (31)	0%(0)	0%(0)	0%(0)	0%(0)
30歳代 (34)	5.9%(2)	11.8%(4)	20.6%(7)	11.8%(4)
40歳代 (33)	3.0%(1)	3.0%(1)	15.2%(5)	3.0%(1)
50歳代 (25)	20.0%(5)	0%(0)	28.0%(7)	0%(0)
60歳代 (15)	6.7%(1)	0%(0)	6.7%(1)	0%(0)

不明は除く

資料 調査票（一般国民用）

生殖補助医療技術についての意識調査

平成11年2月

厚生省
厚生科学研究費補助金厚生科学特別研究「生殖補助医療技術に対する医師及び国民の意識に関する研究班」
主任研究者 矢内原巧 昭和大学産科婦人科学教授

調査をお願いする皆様へ

生殖補助医療技術についての意識調査へのご協力をお願い

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

私たちは厚生省の厚生科学特別研究「生殖補助医療技術に対する医師及び国民の意識に関する研究」を担当している研究班です。

近年、妻以外の卵子を使用した体外受精や民間会社による精子バンクの精子を使用した人工授精などが行われており、これらの技術については医学的な問題のほか、生まれてきた子どもが誰の子になるのかなど、法的、倫理的、社会的な問題が指摘されています。

こうした問題については、広く国民に開かれた議論がなされる必要があることから、現在、厚生省では、これらの問題について審議会の中に専門委員会を設置し、集中的に検討を行うとともに、インターネットを通じて一般のかたがたのご意見をうかがっているところです。

こうした中で、当研究班では、産婦人科医、小児科医、不妊治療を受けている患者さんがた、そして広く一般のかたがたに対してこのような技術に関する意識調査を行うことといたしました。

この調査の結果は、緊急に取りまとめのうえ厚生省の専門委員会に報告することとなり、今後の生殖医療の在り方を検討するうえで貴重な資料となります。

調査対象とさせていただいた皆様におかれましては、ご多忙のことと存じますが、この調査の趣旨、目的をご理解のうえ、調査にご協力くださるようお願い申し上げます。

回答済みの調査票は同封の返送用封筒に入れ、保健所職員にお渡しいただくか、直接、厚生省児童家庭局母子保健課あてに返送ください（締め切りは2月末日です）。郵送については切手を貼る必要はありません。

なお、当然の事ながら調査票は匿名とし、回収後、統計的に処理いたしますのでご協力いただいた皆様へご迷惑をお掛けすることは決してないことを申し添えます。

また、調査の結果については、5月頃にインターネット（厚生省ホームページ <http://www.mhw.go.jp>）やマスコミ等を通じて発表される予定です。

敬具

本調査に関する問い合わせ先

分担研究者 山縣然太朗 山梨医科大学保健学Ⅱ講座助教授
〒409-3898 山梨県中巨摩郡玉穂町下河東1110
TEL 055-273-0350 (ダイヤルイン)

<ご記入にあたってのお願い>

- ・この調査は、個人を対象にしていますので、あて名の方がご自身で記入して下さい。
- ・お答えは、Q1から順に質問ごとに用意した答えの中から、あてはまるものの番号に○印をつけて下さい。「その他」にあてはまる場合には、()内に具体的な内容を記入して下さい。
- ・「○はひとつ」とある質問では、○はひとつにしぼって下さい。
- ・一部の方だけに答えていただく質問もありますが、その場合は矢印(→)で示したり、説明がありますので、指示に従ってお答え下さい。

Q1 以下のAとBそれぞれ対立する考え方のうち、あなたのお考えはどちらにより近いですか。(1)~(8)のそれぞれについて、1~4のいずれか、ひとつを選んでください(○は1~4のうちひとつ)。

A	Aに近い	どちらか といえば Aに近い	どちらか といえば Bに近い	Bに近い	B
(1)やはり「男は仕事、女は家庭」 を中心に生活するのが良い	1	2	3	4	仕事も家庭も男女、同じように行 うのが良い
(2)女性は子どもを産んでこそ一 人前だと思う	1	2	3	4	子どもを産まない生き方も女性 の一人前の生き方だと思う
(3)結婚したら子どもを持つのが あたりまえだと思う	1	2	3	4	結婚しても、子どもを持つ、持た ないは、個人の自由だと思う
(4)子どもがいない人生なんて考 えられない	1	2	3	4	子どもがいなくても幸福な人生 をおくれると思う
(5)血は水より濃し(親子関係は 血のつながりが大切)	1	2	3	4	産みの親より育ての親
(6)年をとって子や孫がいないの は不幸なことだと思う	1	2	3	4	子や孫がいなくても幸福な老後 はあると思う
(7)家を自分の代で途絶えさせ てはいけないと思う	1	2	3	4	家が自分の代で途絶えるとして も、それはしかたのないことと思 う
(8)医療技術の進歩は、人間にと って幸福よりも不幸をもたら していると思う。	1	2	3	4	人間生活をより幸福なものにす るためには、できる限り医療技術 を発展させるべきだと思う。

Q2 子どもがほしくてもできない夫婦に対して、妊娠、出産するための治療（不妊治療）がなされ、さまざまな技術（生殖補助医療技術）が開発されています。これらの技術をあなたは知っていますか。それぞれの技術につきひとつを選んでください（○は1～3のうちひとつ）。

生殖補助医療技術	知っている	聞いたことはある	知らない
(1)女性が特定の薬を使用することにより通常より多く排卵をする（排卵誘発剤の使用）	1	2	3
(2)夫の精子を妻の子宮内に医学的な方法で注入すること（夫の精子を用いた人工授精：AIH）	1	2	3
(3)夫以外の精子を妻の子宮内に医学的な方法で注入すること（第三者の精子を用いた人工授精：AID）	1	2	3
(4)妻の体から卵子を取り出し、それを体外で夫の精子と受精させ、その受精卵を妻の子宮内にもどすこと（夫婦間体外受精）	1	2	3
(5)妻の体から卵子を取り出し、それを体外で夫以外の男性の精子と受精させ、その受精卵を妻の子宮内にもどすこと（第三者の精子を用いた体外受精）	1	2	3
(6)妻以外の女性の体から卵子を取り出し、それを体外で夫の精子と受精させ、その受精卵を妻の子宮内にもどすこと（第三者の卵子を用いた体外受精）	1	2	3
(7)夫婦以外の男女から精子と卵子を体外で受精させ、その受精卵を妻の子宮内に入れること（第三者の受精卵を用いた胚移植）	1	2	3
(8)夫の精子を、妻とは別の女性の子宮内に医学的な方法で注入してその女性に妊娠・出産してもらうこと（代理母）	1	2	3
(9)夫婦の受精卵を妻とは別の女性に移植してその女性に妊娠・出産してもらうこと（借り腹）	1	2	3

不妊治療についての説明

不妊には、男性側、女性側または両者ともに原因があります。治療としては排卵誘発剤などの薬物療法や卵管の通過障害に対する手術療法のほか、人工授精、体外受精といった生殖を補助するための技術があります。

人工授精とは受精を目的として、人工的に注射器を用いて、精子を子宮などの女性性管内に注入することにより妊娠させる方法です。注入する精子の提供者が夫の場合を配偶者間人工授精（AIH）といい、夫以外の第三者の場合を非配偶者間人工授精（AID）といいます。

体外受精とは卵子と精子を取り出し体外で受精させることをいいます。こうしてできた受精卵を女性の子宮に入れることにより妊娠させる方法です。この場合卵子を取り出す女性に排卵誘発剤の使用や採卵（卵子を体から取り出す）などの身体的負担があり、また、時に副作用を伴うことがあります。

生殖補助医療技術の精子提供者、卵子提供者、出産する人の組み合わせ。

	精子	卵子	出産
夫の精子を用いた人工授精（AIH）	夫	妻	妻
第三者の精子を用いた人工授精（AID）	第三者	妻	妻
夫婦間の体外受精	夫	妻	妻
第三者の精子を用いた体外受精	第三者	妻	妻
第三者の卵子を用いた体外受精	夫	第三者	妻
第三者の受精卵を用いた胚移植	第三者	第三者	妻
代理母	夫	第三者	第三者
借り腹	夫	妻	第三者

「第三者の精子を用いた人工授精（AID）」についてお聞きします。

－夫以外の男性の精子を妻の子宮内に医学的な方法で注入すること－

精子	卵子	出産
第三者	妻	妻

Q3 あなたが子どもを望んでいるのになかなか子どもに恵まれないとしたら、あなたはこの技術を利用しようと思いませんか（○はひとつ）。

1. 利用したい → Q5 へ
2. 配偶者が賛成したら利用したい → Q5 へ
3. 配偶者が望んでも利用しない → Q4 へ

Q4 Q3 で「3.配偶者が望んでも利用しない」と答えた方にうかがいます。その理由は何ですか。いくつでも選んでください（○はいくつでも）。

1. 自分（男性の場合は妻）の健康に害がある可能性があるから
2. 生まれてくる子どもの健康に害がある可能性があるから
3. 家族（親子）関係が不自然になると思うから
4. 親権や遺産相続などいろいろなトラブルが生じる可能性があるから
5. 妊娠はあくまで自然になされるべきだと思うから
6. 生まれた子どもが結婚する時、近親婚の可能性があるから
7. 時間的、金銭的に負担が大きいから
8. 商業的に利用されると思うから
9. それ以外の理由（ ）
10. わからない

Q5 一般論としてお聞きします。このような技術を社会的に認めるべきだと思いますか（○はひとつ）。

1. 認めてよい
2. 条件付きで認めてよい
3. 認められない
4. わからない

「第三者の精子を用いた体外受精」についてお聞きします。

－妻の体から卵子を取り出し、それを体外で夫以外の男性の精子と受精させ、その受精卵を妻の子宮に
もどすこと－

精子	卵子	出産
第三者	妻	妻

Q6 あなたが子どもを望んでいるのになかなか子どもに恵まれなかったら、あなたはこの技術を利用しようと思えますか (○はひとつ)。

1. 利用したい → Q8へ
2. 配偶者が賛成したら利用したい → Q8へ
3. 配偶者が望んでも利用しない → Q7へ

Q7 Q6で「3.配偶者が望んでも利用しない」と答えた方にうかがいます。その理由は何ですか。いくつでも選んでください (○はいくつでも)。

1. 自分 (男性の場合は妻) の健康に害がある可能性があるから
2. 生まれてくる子どもの健康に害がある可能性があるから
3. 家族 (親子) 関係が不自然になると思うから
4. 親権や遺産相続などいろいろなトラブルが生じる可能性があるから
5. 妊娠はあくまで自然になされるべきだと思うから
6. 生まれた子どもが結婚する時、近親婚の可能性があるので
7. 時間的、金銭的に負担が大きいため
8. 商業的に利用されると思うから
9. それ以外の理由 ()
10. わからない

Q8 一般論としてお聞きします。このような技術を社会的に認めるべきだと思えますか (○はひとつ)。

1. 認めてよい
2. 条件付きで認めてよい
3. 認められない
4. わからない

「第三者の精子を用いた技術」についてお聞きします。

－夫以外の男性の精子を用いた人工授精 (AID) もしくは体外受精－

精子	卵子	出産
第三者	妻	妻

Q9 親子関係を考えて場合、夫以外の男性の精子を用いて生まれた子どもはどのようにすべきと考えますか。次のうちからひとつ選んでください (○はひとつ)。

1. 夫と妻の実子とする
2. 夫の養子、妻の実子とする
3. 夫と妻の養子とする
4. その他 ()
5. わからない

「第三者の卵子を用いた体外受精」についてお聞きします。

－妻以外の女性の体から卵子を取り出し、それを体外で夫の精子と受精させ、その受精卵を妻の子宮に入れること－

精子	卵子	出産
夫	第三者	妻

- Q10 あなたが子どもを望んでいるのになかなか子どもに恵まれないとしたら、あなたはこの技術を利用しようと思いますか（○はひとつ）。
1. 利用したい → Q12 へ
 2. 配偶者が賛成したら利用したい → Q12 へ
 3. 配偶者が望んでも利用しない → Q11 へ
- Q11 Q10 で「3.配偶者が望んでも利用しない」と答えられた方。その理由は何ですか。いくつでも選んでください（○はいくつでも）。
1. 自分（男性の場合は妻）の健康に害がある可能性があるから
 2. 生まれてくる子どもの健康に害がある可能性があるから
 3. 卵子を取り出す女性の健康に害がある可能性があるから
 4. 家族（親子）関係が不自然になると思うから
 5. 親権や遺産相続などいろいろなトラブルが生じる可能性があるから
 6. 妊娠はあくまで自然になされるべきだと思うから
 7. 生まれた子どもが結婚する時、近親婚の可能性があるので
 8. 時間的、金銭的に負担が大きいから
 9. 商業的に利用されると思うから
 10. それ以外の理由（)
 11. わからない
- Q12 一般論としてお聞きします。このような技術を社会的に認めるべきだと思いますか（○はひとつ）。
1. 認めてよい
 2. 条件付きで認めてよい
 3. 認められない
 4. わからない
- Q13 親子関係を考えた場合、妻以外の女性の卵子を用いて生まれた子どもはどのようにすべきと考えますか。次のうちからひとつ選んでください（○はひとつ）。
1. 夫と妻の実子とする
 2. 夫の実子、妻の養子とする
 3. 夫と妻の養子とする
 4. その他（)
 5. わからない

「第三者の受精卵を用いた胚移植」についてお聞きします。

－夫婦以外の男女の精子と卵子を体外で受精させ、その受精卵を妻の子宮に入れること－

精子	卵子	出産
第三者	第三者	妻

Q14 あなたが子どもを望んでいるのになかなか子どもに恵まれないとしたら、あなたはこの技術を利用しようと思いますか（○はひとつ）。

1. 利用したい → Q16 へ
2. 配偶者が賛成したら利用したい → Q16 へ
3. 配偶者が望んでも利用しない → Q15 へ

Q15 Q14 で「3.配偶者が望んでも利用しない」と答えた方にうかがいます。その理由は何ですか。いくつでも選んでください（○はいくつでも）。

1. 自分（男性の場合は妻）の健康に害がある可能性があるから
2. 生まれてくる子どもの健康に害がある可能性があるから
3. 卵子を取り出す女性の健康に害がある可能性があるから
4. 家族（親子）関係が不自然になると思うから
5. 親権や遺産相続などいろいろなトラブルが生じる可能性があるから
6. 妊娠はあくまで自然になされるべきだと思うから
7. 生まれた子どもが結婚する時、近親婚の可能性があるから
8. 時間的、金銭的に負担が大きいから
9. 商業的に利用されると思うから
10. それ以外の理由（ ）
11. わからない

Q16 一般論としてお聞きします。このような技術を社会的に認めるべきだと思いますか（○はひとつ）。

1. 認めてよい
2. 条件付きで認めてよい
3. 認められない
4. わからない

Q17 親子関係を考えた場合、このような技術によって生まれた子どもをどのようにすべきと考えますか。次のうちからひとつ選んでください（○はひとつ）。

1. 依頼者（受精卵をもらった）夫婦の実子とする
2. 依頼者（受精卵をもらった）夫婦の養子とする
3. わからない

「代理母」についてお聞きします。

－夫の精子を妻以外の女性の子宮に医学的な方法で注入してその女性に妊娠・出産してもらう－

精子	卵子	出産
夫	第三者	第三者

Q18 あなたが子どもを望んでいるのになかなか子どもに恵まれないとしたら、あなたはこの技術を利用しようと思えますか（○はひとつ）。

1. 利用したい → Q20へ
2. 配偶者が賛成したら利用したい → Q20へ
3. 配偶者が望んでも利用しない → Q19へ

Q19 Q18で「3.配偶者が望んでも利用しない」と答えられた方。その理由は何ですか。いくつでも選んでください（○いくつでも）。

1. 生まれてくる子どもの健康に害がある可能性があるから
2. 代理母となる女性の健康に害がある可能性があるから
3. 家族（親子）関係が不自然になると思うから
4. 親権や遺産相続などいろいろなトラブルが生じる可能性があるから
5. 妊娠はあくまで自然になされるべきだと思うから
6. 生まれた子どもが結婚する時、近親婚の可能性があるから
7. 時間的、金銭的に負担が大きいから
8. 商業的に利用されると思うから
9. それ以外の理由（ ）
10. わからない

Q20 一般論としてお聞きします。このような技術を社会的に認めるべきだと思いますか（○はひとつ）。

1. 認めてよい
2. 条件付きで認めてよい
3. 認められない
4. わからない

Q21 親子関係を考えて場合、このような技術によって生まれた子どもをどのようにすべきと考えますか。次のうちからひとつ選んでください（○はひとつ）。

1. 依頼者夫婦の実子とする
2. 依頼者の夫の実子、依頼者の妻の養子（出産した女性の実子）とする
3. 出産をした女性が婚姻している場合には、その夫婦の実子とする
4. わからない